山口大学通りの景観と住みやすさの提案

福田　隆眞

A Proposal to Improve Scenery and Amenity
of Yamaguchi University Street

FUKUDA Takamasa
（Received August 5, 2010）

キーワード：山口大学通り、景観調査、住みやすさ

はじめに

今から17年前、山口大学教育学部の学生とともに山口大学通りの景観調査を行った。[1] 当時は、大学前の通りが改装されたばかりで、その新しい景観を学生や住民がどのように受け止めているかを調査した。

現在は当時と比べ、建物や自然などあらゆる面で変化が見られるが、通りの利用者は以前と変わらず、主に「学生」である。こうした状況に対応し、「学生」の視点で見る山口大学通りの景観について「通り全体の景観」、「具体的問題点」の２側面から分析をし、平成22年度現在からの住みやすさの提案をまとめた。

学生は教育学部美術教育選修４年、阿部萌、梶原友里奈、佐藤文恵、新田桃子、山下眞麗子の５名である。

１．通り全体の景観

山口大学通りとは、山口大学吉田キャンパス正門前の通りである。今回の調査対象としては、山口大学吉田キャンパス正門前から椹野川までとする。

まずは通り全体の景観について、実際に通りを歩き観察しながら写真とメモを持ち帰り、問題点やその改善策などについて検討した。また、よい点については、あまり意識せず当然のこととして生活していることも多いため、17年前に景観調査をした当時の写真と比較することも手がかりとして捉え直していく。

緑の多い印象を与える山口大学通りの道路沿いに並ぶ「けやきの木」は、今から17年前の1993年に植樹された。これらのけやきの本数は今現在、東43本、西38本あり、それらの存在は17年前より成長し（図１、図２）、大学通りに住みやすさ、快適さを与えている。ただ、けやきの木の成長に応じて、根が伸び道路にひび割れが起こるという問題点も出ている。他に、落ち葉の掃除などのメンテナンスの問題が新たに生まれると考えられるが、この問題については市や地域、近隣店舗、大学生が協力しながら維持していきたい。ま

た、けやきの木が欠けている部分には植樹を行うのがよいだろう。

大学前ということで、緑があふれる中にも学生が頻繁に利用する店舗や建物(24時間営業のスーパー、コンビニ、薬局、書店、銀行、美容室など)が多く所在している。大学前や店舗前の横断歩道は、学生に限らず多くの人が行き交うため、混雑が見られる。混雑緩和のため、大学前の交差点が2010年春に歩車分離式交差点に変更されたが、混雑する状況は変わらないように感じられる。（図３、図４）

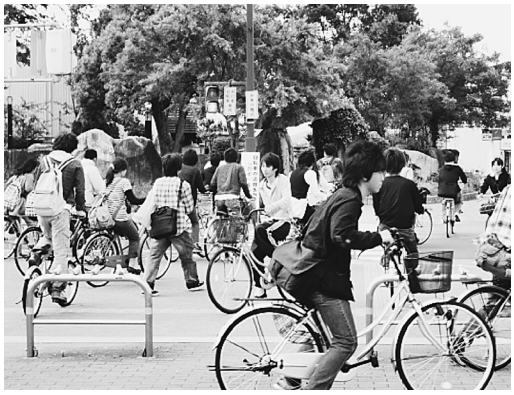
通り全体としては、山口盆地の東部、湯田温泉の近所にあって良好な自然環境、早朝にはときおり霧につつまれることもある。また、中国ＪＲバスが大学構内に乗り入れるほか、防長バスが構内正門前に停車するため、二種類のバスが通りに定期的に見られる。車数も時間帯に限らず多く、自動車学校の練習コースにもなっている。

その他、本大学の目の前には「街かど広場」という名の石の公園が存在する。この石の公園は、通りの主な利用者である学生らにとってどのような存在なのか。山口大学の学生の視点で見てみると利用者数は一見少ないようであるので、この公園についても次の項目「具体的問題点」で詳しく述べる。

（図１）17年前のけやき並木
けやきが成長し、街に緑が増えた

（図２）平成22年現在のけやき並木

（図３）大学前の通り



（図４）大学前の横断歩道の様子

授業時間には人通りは少ない（図3）が、授業の入れ替わり時などには混雑する。（図4）

●交差点

●アルク前の並木道

●アルク

●ポプラ駐輪場

●山口大学正門

●石の公園（ポケットパーク）

2010年現在の山口大学通り

1994年の山口大学通り

２．具体的問題点

2010年５月から６月にかけて山口大学通りを実際に観察しながら、写真とメモを持ち帰り、問題点などの気づきを以下の項目にまとめた。それぞれ良い点、問題点を画像とともに列挙し、以下のそれぞれの改善策を提案する。

(1)　道路
(2)　ストリートファニチュア
(3)　石の公園（ポケットパーク）

(1)　道路

○良い点

・緑が多く、目に優しい。落ち着く。（図５）
・目立つゴミが少ない。
・自転車と歩行者の道が分かれている。（ただし、認知度が低いのは問題である。）（図６）

●問題点

・地面に凹凸やひび割れが多いため、歩きにくい。また雨の日には大きな水たまりになってしまう箇所が多く見られる。（図７）
・自転車と歩行者の道が分かれている（「自転車通行帯」の看板もある）が、認知度が低く、ルールを守っている人が少ない。
・「自転車はすべて自転車通行帯を通らなければならない」とした場合、道幅が狭いので自転車同士がすれ違いにくい。
・目立つゴミは少ないが、橋の下や植え込みの中など一見見えない所にゴミがある。（図８）

◎改善策として

・地面のひび割れを舗装する。けやきの根が育つことへの配慮も必要。
・「自転車通行帯」の看板を視界に入る位置に設置し直す。または、横断歩道のように地面に自転車マークを描くなどする。
・学生はほとんどが自転車を利用している現状を踏まえ、自転車の道を広くする。
・ポイ捨てしないよう心がけるとともに、ゴミ拾いを行う機会を設ける。（地域クリーン作戦など）

（図５）緑の多い道路

（図６）「自転車通行帯」の看板

（図７）地面のひび割れ

（図８）植え込みの中のゴミ

(2)　ストリートファニチュア

ストリートファニチュアとは人間の街路での生活とともに存在しているものである。現代の社会においてはそれらがいくつかの系統をもって分類される。由良滋は次のような分類を提示している。[2]

情報系（サイン類、時計、各種案内板、スピーカー、公衆電話）
衛生系（吸いがら入れ、ゴミ箱）
交通系（信号機、道路標識、バスストップ、ガードフェンス）
管理系（街路灯、電柱、テレビカメラ、交番、消火栓）
サービス系（ベンチ、売店、自動販売機）
修景系（街路樹、屋外彫刻、舗石、噴水）
身体障害者系（誘導のための聴覚触覚などで伝達、利用できるもの）
エネルギー系（マンホールの蓋）

この分類では、大学前の石の公園（休憩スペース）もストリートファニチュアとなるが、本稿では、石の公園が大学通りの重要な要素となると考えられるため項目を別にし、ここではそれ以外のものについて述べる。

○良い点
- 花壇が多く、地域の住民によって、よく整備されている。
- バス停留所前にバスを待つ人のためのベンチがある。（図９）
- 警察緊急通報装置が所々、計３つ設置されているので何かあった時の安心感を与えている。（図10）
- 信号機が新しいものになり、待ち時間がわかりやすくなった。（図11）

●問題点
- 街路灯がけやきの木に覆い被されていて、隠れている。
- バスの到着時間を教えるバス停の時計が止まったままで放置されている。（図12）
- 看板が見えにくい場所にあるので、広告が入らず常に「広告募集中」の状態である。（図13）
- ごみ箱が少ない。（自動販売機横など）
- 愛児園平川保育所の看板の位置が不適切で分かりづらい。（現在は反対車線にしか看板がなく、またその看板も木がかぶさり見にくい。）（図14）
- けやきの木に鳥が巣をつくるため、鳴き声がうるさかったり、フンが落ちてきたり

する。

◎改善策として

・バス停のベンチに雨よけを作る。
・けやきの木の剪定を定期的に行う。
・看板は人目につきやすい位置に移動する。
・警報装置の存在や使い方を知らない人が多いので、周知徹底する。

（図９）ベンチのあるバス停前

（図10）ボタンを押すと警察に繋がる仕組み

（図11）待ち時間のわかる信号機

（図12）バス停の止まった時計

（図13）広告募集の看板

（図14）平川保育所の看板

(3)　石の公園（ポケットパーク）

この石の公園は「街かど広場」として、通学や買い物によって通行量が増えている都市計画道路泉町平川線の椹野川から山口大学までの区間を、ゆとりとうるおいのある街路とすることを目的に今から17年前である1994年に整備を行ったものである。

地域のコミュニティの場として地域住民と学生が集い、憩い、語れる場となるように、交差点の角の敷地を自然石で囲み、クスノキやケヤキなど約30種の植栽を施し、くつろぎのある空間を確保することを目的として作られ、平成６年度には国土交通省大臣表彰「手づくり郷土賞」に選ばれている。[3]

しかし、現在の状況としては、存在をあまり知られていなかったり、老朽化が見られたりと問題点も挙げられるので、改めて実際に足を運び検証した。

○良い点

・中まで入ってみると、意外と広い広場になっているので多くの人が利用できる。（図15）
・テーブルとベンチはデザイン性に富み、おしゃれである。（図16）
・緑が多く、利用者に心地よさを与える。
・岩と緑に囲まれているので、落ち着く空間になっている。（図17）
・休憩や遊びの場としての利用者がみられる。

●問題点

・老朽化により、岩と岩とをつなぐ金属がむき出しになっていたりナットが外れボルトが飛び出ていたりするので、危険であり、恐怖感を与える。（図18）
・入口頭上の岩が重そうであったり割れていたりしているので、崩れ落ちて人にけがをさせる危険性がある。（図19、図20）
・テーブルとベンチは、見た目には良いが、座り心地等の機能性には問題がある。
・外からの見通しが悪いため、犯罪が起こる可能性がある。
・電灯がないため、危険である。
・木が多いため、秋から冬にかけて落ち葉や枯れ枝が地面に散らかる。

◎改善策として

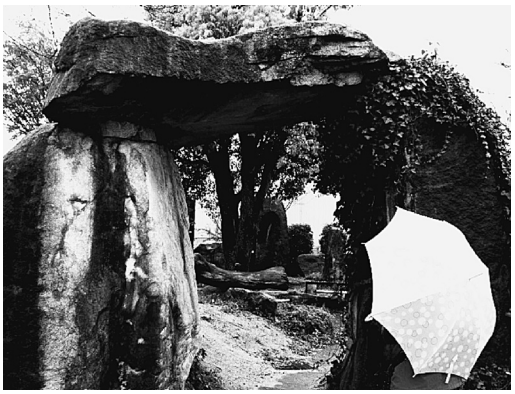
・落ちる危険性のある岩を取り除く。
・中の様子が見えるような公園の造りに変え、利用しやすい環境へと整える。
・ボルト、ナットなどの接続器具のメンテナンスを定期的に行う。
・定期的に学生や地域の住民が掃除することを心がける。（県が企業に委託しているのであれば、頻度を増やす。）

（図15）石の公園の内部

（図16）石と金属によるテーブルとベンチ

（図17）石の公園の外観　岩と緑にかこまれている

（図18）ボルトが飛び出ていて危険



（図19）落ちてきそうな入口頭上の岩

（図20）蔦が生え、ひび割れている

参考写真　1997年、作られた当時の公園

（図21）公園内部　木はまだ小さく石もきれい

（図22）木が茂っていないので開放感がある

まとめ

全体を通して検討したところ、大学通りのケヤキや花壇の花、石の公園（ポケットパーク）など、緑が多く自然に恵まれていることがわかった。また、17年前に比べると木が大きく成長しており、以前以上に緑豊かになっている。

17年経つと仕方のないことだが、劣化が目立つ。危険な現状もあるので早急にメンテナンスをするべきである。石の公園にしても、道路にしても、使い勝手が悪くそれが住民にあまり利用されない原因になっていると考えられる。道路を整備する際、木が育ってきてからのことを考えていなかったのだろうか。

街づくりは先見性をもってするべきである。時間的な考慮としては人間の成長に合わせて20年くらいのスパンを規定して考えることが妥当である。また、住民の意見も聞き、地域の人が住みよい環境にするとよいと考える。

一目見たときや通った時に感じる印象、景観も大事だが、地面のでこぼこを直したり駐輪場を増やしたりする、使い勝手のよい店を増やすなど、暮らしやすさを整えることも大切である。

注

1　福田隆眞：山口大学通りの景観調査について，山口大学論叢44号，1994
2　由良滋：ストリートファニチュアー，（廣田長治郎編集『デザインの事典』収録）朝倉書店，222，1988
3　国土交通省大臣表彰：手づくり郷土賞
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/index.html

参考文献

岩崎真志：ポケットパークの利用と評価及び管理の方向性に関する研究―その２―
山口市のポケットパークの評価と管理の方向性，日本建築学会中国支部，研究報告集第24巻，2001.